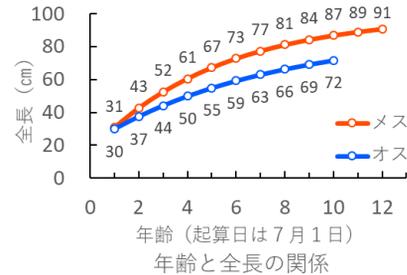


ヒラメ〔地方名：そげ、はが、こばら（小型）〕

1 生態

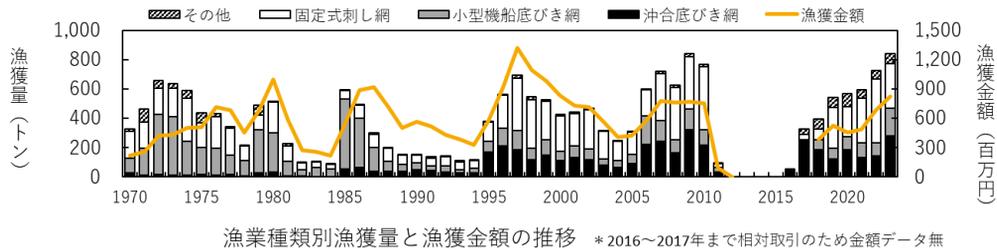
- ・全国沿岸の水深～150m、粗砂及び砂礫域に生息します。夏季は産卵期のため沿岸へ、冬季は沖合へ移動します。
- ・オスは満2歳、メスは満3歳で成熟魚が見られます。全長ではオス35cm、メス44cmで成熟します。産卵期は5～8月で、産卵様式は数十回に分けて行う多回産卵型です。
- ・成魚は主にイワシ類等の魚類、幼魚期はアミ類等の甲殻類を食べます。

*「令和5（2023）年ヒラメ太平洋北部系群の資源評価」により右図を作成



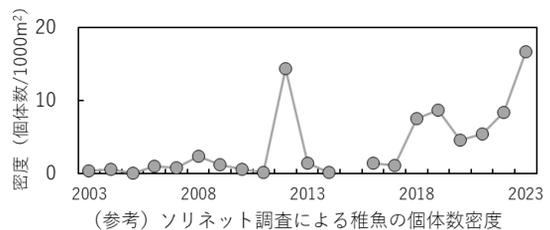
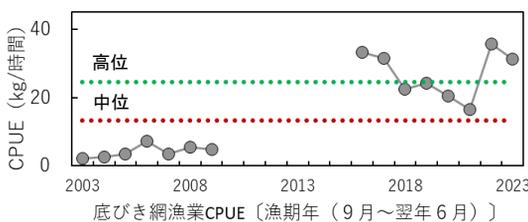
2 漁業に関する情報

- ・沖合底びき網及び小型機船底びき網や刺し網、釣り等で周年漁獲されています。
- ・2023年（令和5年）の漁獲量は過去最高の845トン、金額は827百万円でした。
- ・2011年3月の震災以降、操業自粛や国による出荷制限で水揚げはありませんでしたが、2016年（平成28年）10月から漁獲が再開され、操業の拡大とともに数量、金額は増加しています。



3 資源の状態

- ・原発事故の影響により、操業が限定されている中、震災以降、底びき網漁業のCPUE（曳網1時間あたりの漁獲量）は、中位～高位で推移しています。
- ・2019～2023年漁期の資源水準は高位で増加傾向にあります。
- ・毎年7～10月に実施する調査船調査の結果、2018年以降、0歳個体の個体数密度は高位で推移しており、良好な加入が継続しているものと考えられます。



4 資源管理の取組み

- ・漁業者が自主的に漁獲全長を制限（相双地区50cm以上、いわき地区40cm以上）し、資源の有効利用を図っています。